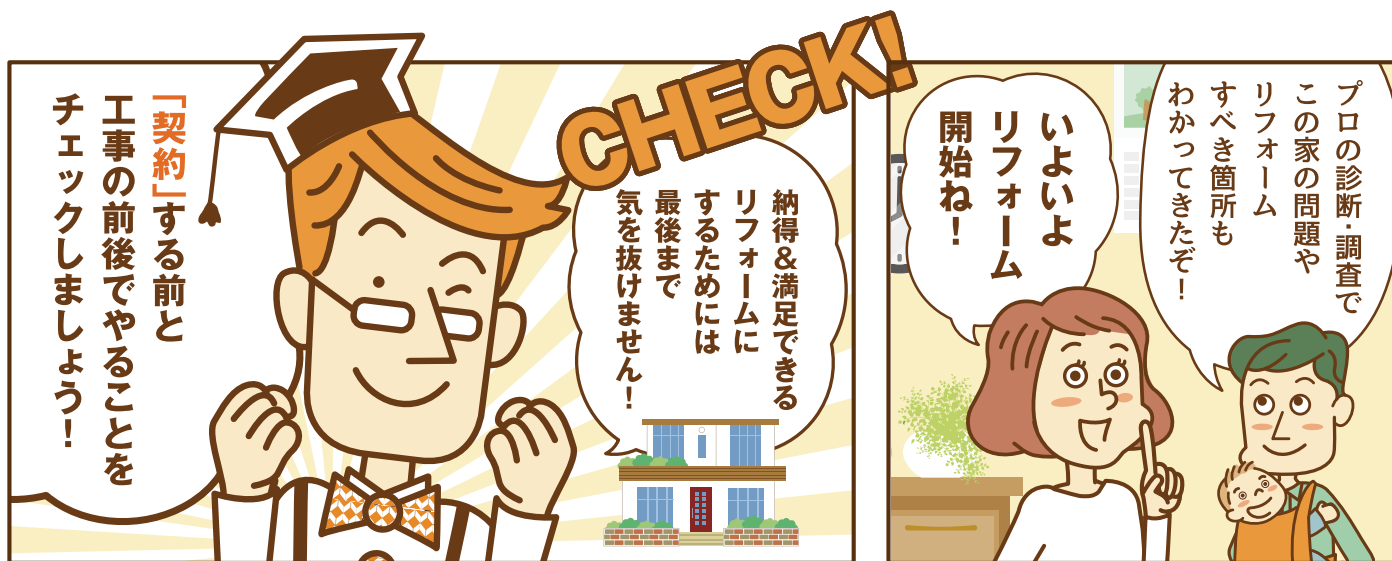




リフォームの費用とプランを左右する「建物状況調査」で家中をくまなくチェック!



工事前から工事後まで 安心&納得するチェックポイント



① 工事前のチェックポイント

- 居住したまま工事する場合、水周りが使用できない期間の確認
- 近隣住民への挨拶
- 減税・補助制度を活用する場合に必要な手続き

② 工事中のチェックポイント

- 契約内容通りのリフォームになっているか
- 工事内容を途中で変更した場合、必ず書面で残す
- 追加工事が必要な場合、その内容と金額を工事の追加前に確認

③ 工事後のチェックポイント

- 竣工検査に同行してもらい、気になるところがあればチェックを!
- 工事の記録の保管(契約書・図面・保証書など)
- 工事後の点検・メンテナンスや長期的な維持保全計画の相談

重要!

どんなに小さなリフォーム工事でも 契約書がトラブル防止につながる!

見積書や口約束でも契約は成立しますが、後になってトラブルの原因になることが少なくありません。どんな小さいリフォーム工事でも書面で契約を結び、契約約款等も必ず確認しましょう。



中古
の場合

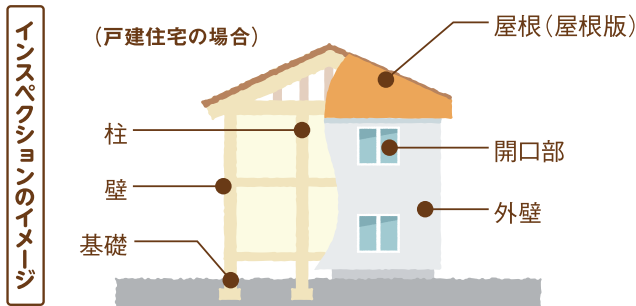
中古住宅を購入する前に「建物状況調査」をしましょう！



Step
01

状況調査技術者による「建物状況調査」

外見だけではわからない、家の内部や細部までくまなく調べる建物状況調査（インスペクション）を行う専門家「状況調査技術者」（ホームインスペクター）に調査を依頼！



状況調査技術者を選ぶときは…

- 建築士の資格を有しているか？
- 経験豊富で実績があるか？
- 第三者的な立場か？

などを確認

建物状況調査(インスペクション)とは

目視や計測などで、住宅の基礎や外壁のひび割れ、天井の雨漏りなどの劣化・不具合が発生していないかを調べる「調査」です。調査をふまえて、補修の必要性など、安全・安心で適切なリフォームプランをつくることができます。

インスペクション

検索

Step
02

リフォーム内容の検討と業者選び

建物状況調査の結果をもとに、リフォーム業者に相談し、予算や要望に合わせてリフォーム内容の検討をしましょう。リフォーム内容が決まったら、業者を選びましょう。3社程度に見積りを依頼すると安心！



リフォーム内容検討のときは…

- 耐震補強の必要性
- 雨漏りやシロアリの被害状況
- 屋根・基礎・外壁の状況
- 間取り変更の可否
- 水周りの移動や導線の変更
- 現在の断熱性能

などを確認

リフォームの流れ